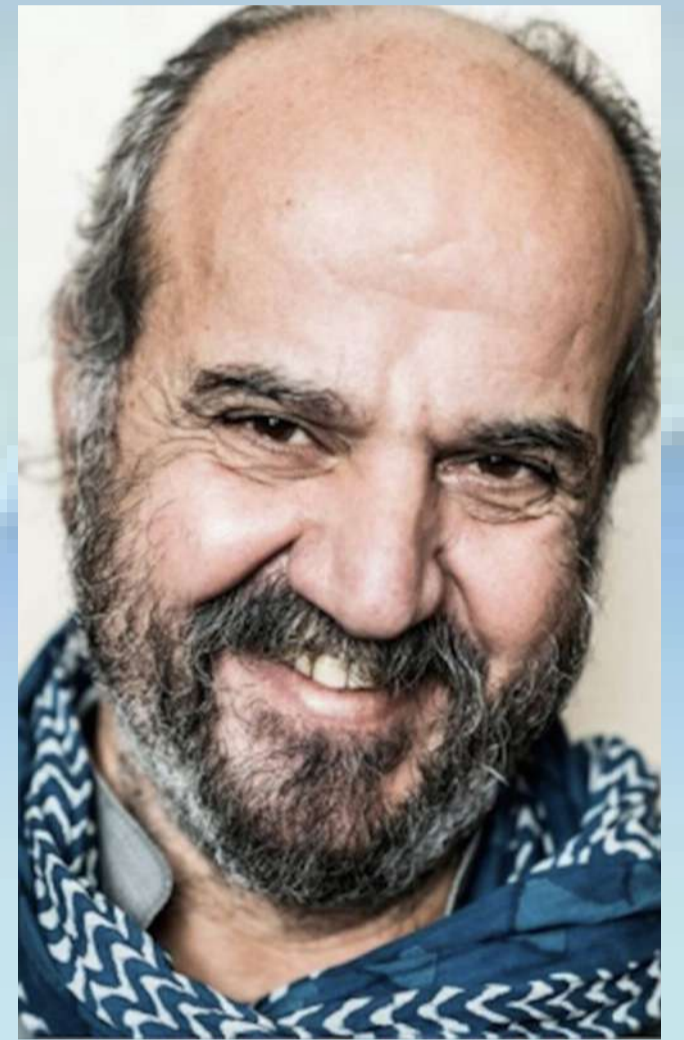


シリア映画

ASNET「アジアを知る」シンポジウム

『真昼の星』上映 & ウサーマ・ムハンマド監督講演



山形国際ドキュメンタリー映画祭の審査員として来日されたシリア人映画監督ウサーマ・ムハンマド監督をお迎えし、代表作『真昼の星』（1988）を日本語字幕付きで初公開します。国立映画総局の下で創られた当作品は国内の試写会で物議を醸して公開禁止となった一方、カンヌを含め国外ではその芸術性ゆえに高く評価されました。物語は、アラウィー派の村で花嫁が望まぬ従兄弟婚を拒否して大波乱となるところから始まります。だが兄は有力な親族との結婚を妹に強いるべく東奔西走する一方、聴力を失った弟にも愛するがゆえに暴力をふるい続けます。「普通の人間として尊重されたい」、ダマスカスに逃げ出した弟はつぶやきます。現在のシリア危機の予兆ともなった1980年代に監督が描いた「小さな山村の物語」がいかなる意味をもっていたのかについて、上映後に監督にじっくりお話を聞きたいと思います。

日時：10月17日（木）18時から（17時半開場） 入場無料 予約不要

場所：東京大学本郷キャンパス山上会館（地図参照）

上映作品：『真昼の星』（Nujūm al-nahār）1988年

シリア国立映画総局 上映時間105分

お問い合わせはmecinema2014@gmail.com（中東映画研究会）まで

講演者：ウサーマ・ムハンマド監督

（『シリア・モナムール』2014等）

司会：山本薫（アラブ文学）

聞き手：岡崎弘樹（アラブ政治思想）

通訳：森晋太郎（アラビア語通訳者）



主催：科研費新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」計画研究B01班

「規範とアイデンティティ:社会的紐帯とナショナリズムの間」（代表：千葉大学 酒井啓子）

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

共催：東京大学東洋文化研究所、中東映画研究会